

参議院選挙結果をどうみるか

党奈良県委員会報告集会での山下副委員長・参院議員の報告（大要）

山下芳生党副委員長・参院議員が7月27日、奈良県委員会が行った参院選報告集会での報告（大要）を紹介します。

奈良の皆さん、全国の皆さんのおかげで参議院比例代表で4選を果たすことができました山下芳生でございます。みなさんに心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

奈良で猛奮闘された鎌野祥二さんをはじめ全国で奮闘された候補者の皆さんの思いも胸に、6年間、誠実に、果敢に国政で奮闘したいと思っています。これからもご支援よろしくお願いいたします。

参議院選挙の結果をどうみるか、これからどう頑張るかについてお話しさせていただきます。みなさんのお手元に7月22日付の常任幹部会の声明がありますが、そこに結果をどうみるかが端的に書かれていますので、これを見ながら話を聞いていただきたいと思います。

改憲勢力の3分の2を阻止

「大健闘の結果」をつかもう

まず（1）のところで参議院選挙全体の結果について述べています。「日本共産党がどうだったのか」から入るのではなく、今回の参議院選挙の全体の結果をまずしっかり見よう、確信にすべきところはしっかり確信にしようということです。

そこで極めて重要なのは、自民、公明、維新などの改憲勢力が、改憲発議に必要な3分の2を割ったことです。安倍総理は今度の参議院選挙で「憲法について議論する政党・候補か、議論すらない政党・候補かを選ぶのが今度の選挙だ」と、自ら改憲を前面に掲げて選挙をたたかいました。改憲勢力は参議院でも衆議院でも3分の2を持っていたから、もし、この選挙で自民、公明、維新が議席を伸ばしたら、一気に（かせい）に改憲発議、国民投票などの改憲策動が急加速する危険がありました。今度の選挙で国民がそれを許さなかった、待ったをかけた。ここに参議院選挙全体の結果の重要なポイントがあります。

産経新聞も「改憲勢力3分の2割れ」と大きく報道していました。日本の命運を分ける選挙で、若者を戦場に送る流れが強まることを、国民みんなの力で止めたのです。

選挙の結果を受けても、安倍総理は2021年9月までの自らの総裁任期中に改憲する意欲を示すなど、改憲への執念は弱まっておりません。自民、公明、維新で3分の2を割ったもとで、今度は野党の中に手を突っ込むような策動もやっ

てくるでしょう。しかし、志位委員長が記者会見で述べていますが、「期限ありきの性急な改憲の動きは賛成できない」、これが3分の2を許さなかった国民の意思、民意です。このことを私たちの側からドンと突き付けていく必要があります。

安倍総理は、「与党で過半数を得たから信任を得られた」と言いますが、そんなことはありません。自民党は6年前の改選議席を9つ減らしています。さらに自民党単独過半数も割ってしまいました。そして、安倍総理があれだけ改憲を訴えたにもかかわらず、選挙中の世論調査や出口調査で、安倍政権の下での改憲についても、9条改憲についても、反対多数は変わりませんでした。

こうした審判、民意を踏まえるなら、改憲策動は中止するべきだと迫っていきましょう。



市民・野党共闘が決定的役割

「政治局面を変えた」

（2）では、こういう結果をつくるうえで、市民と野党の共闘が決定的な役割を果たしたと述べています。もし市民と野党の共闘がなくバラバラで一人区をたたかっていたら、改憲勢力が3分の2を割り込むことはありませんでした。割ったといっても4議席です（参院定数245。3分の2ライン164、改憲勢力160）。もしバラバラだったら3分の2を割らせることはできなかった。

今回、32の一人区すべてで野党統一候補を実現し、10選挙区で勝利しました。6年前の選挙で一人区で野党が議席を得たのは、沖縄県と長野県だけでしたから、2議席から10議席になりました。躍進と言っている成果を出しました。しかも、勝った選挙区の相手候補は、多くが現職、大臣や副大

参院選勝利近畿ブロックニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 22(2019.8.2)

臣の経験者など有力議員もいる。そういう力のある自民党候補に競り勝った。自民党も「激戦区」に指定して、安倍総理や菅官房長官など幹部が続々と応援に入りました。それを見事に逆転して勝ったわけですから、共闘の力はものすごい。

3年前、一人区11選挙区で勝利したのに続き、今回10選挙区で勝利した。共闘の力で、安倍総理の改憲策動に痛打を与え、「政治局面を変えた」ことの意義は大きいと思います。

●野党共闘が大きく発展

そして今回の選挙で野党共闘が大きく発展しました。市民連合と5野党が合意をした13項目の共通政策は3年前よりもバージョンアップされました。

安保法制廃止、安倍政権による9条改憲に反対し改憲発議も許さない、消費税10%も中止し公平な税制をつくろうということ、原発は避難計画もないまま再稼働は許さない、そして原発ゼロをめざすということも入りました。辺野古基地建設中止、普天間基地の返還を求めることなど、国政の重要問題について野党間で一致、合意できたことは非常に大きな発展だと思います。

心が通う共闘

多くの選挙区で心が通う共闘が進みました。

近畿では滋賀県の一人区で勝利しました。嘉田由紀子元知事が統一候補になりました。嘉田さんは、いつもトンボとハトのバッジを胸につけていました。立憲民主党で立候補を予定されていた人がつけていたのがトンボのバッジ、ハトはわが党の佐藤耕平選挙区予定候補がつけていたバッジです。嘉田さんは自分が野党統一候補になると決まってからは、その二つのバッジを胸につけて「私一人のたたかいではない。立憲民主党、共産党の候補、それを応援しているみなさんと一緒にたたかっています」と演説で訴え、当選後の会見でも語っておられました。

嘉田さんは、知事時代に新幹線の栗東新駅をストップさせるなど私たちと一緒に素晴らしい実績もあげていましたが、私たちと立場が違う問題もある方で、当初、本



嘉田氏と握手する石黒党滋賀県委員長(右)

当に心ひとつにたたかえるのかと心配する方もありました。ところが「私たちの思いも胸にたたかってくれる人」ということが急速に浸透し、安倍総理が2回、菅官房長官が1回、小泉進次郎氏が3回も入る大激戦を制したのです。

一人区は滋賀のようにどこも大激戦でした。そこで逆転勝利したのは、心が通いあったからだと思います。

相互支援

野党各党が相互に支援しあう取り組みも発展しました。象徴的な選挙区は福井選挙区です。ここでは日本共産党の山田和雄さんが野党統一候補になりました。選挙直前の党首討論で、安倍総理が立憲民主党の枝野代表に、「野党統一候補といっているがバラバラではないか。福井では共産党の候補者が統一候補になっている。枝野さんは福井県の立憲民主党の支持者に共産党の候補者に投票してください、と言うんですか」「もし枝野さんが福井県民だとしたら、共産党の候補者に投票するんですか」という質問をしました。枝野代表は「私がもし福井県民だったら当然野党統一候補に投票します」とハッキリ言われました。そして選挙中、枝野代表が福井県の野党統一候補・日本共産党公認の山田さんの演説会に来てくれ、わが党の小池書記局長と並んで応援演説をしてくれるということまで実現しました。こういうことは今までなかったことです。私たちは、相互推薦、相互支援をしてこそ本気の共闘になると言ってきましたが、今回はその点でも野党共闘が大きく発展しました。

共闘効果



7月25日付赤旗で、32の1人区で、野党統一候補の得票が、応援した4野党（共産、立民、国民、社民）の比例票の合計と比べてどうだったのかをグラフにしています。32のうち29の選挙区で、4野党の比例票合計より、野党統一候補の得票が多かった。1+1+1+1が4ではなく、5にも6にもなる「共闘効果」が大きく現れました。愛媛では野党統一候補が野党合計比212%、2倍以上の得票で自民党に勝ちました。2位の滋賀では163%、3位の秋田では155%、4位の山形では153%の得票で、それぞれ自民党を打ち破りました。5位が奈良で147%です。残念ながら勝利できませんでしたが、奈良でも全国屈指の共闘効果を発揮したことは確信にしてほしいと思います。

私が忘れられないのは、奈良の野党統一候補の西田一美さんが共産党の鎌野候補の宣伝カーに乗って、私たちと一緒に演説したことです（写真上）。私がSNSで写真を拡散すると大反響でした。連合奈良の会長と共産党の副委員長と一緒に手を挙げるというのは、これまでなかったことだと思います。

●総選挙 安倍政権倒し新しい政治へ



(2)では結論として、「総選挙にむけ、市民と野党の共闘をさらに大きく発展させ、安倍政権を倒し、新しい政治をつくるために力を尽くす決意です」と述べ、次のたたかいに向かっています。参議院選挙の成果を、次の総選挙に生かそう、ということです。

立憲民主党の枝野代表は、開票結果を受けた記者会見で、衆院選の候補者擁立について、「すべてが一入区だということを踏まえ、できるだけバッティングしないように、5党派で配慮・考慮しながら、いつあってもいいように備えていきたい」と述べました。

衆議院選挙は、選挙区は全部1入区です。そういう条件のもと、与野党が競り合っているところを中心に一本化をはかっていく話し合いをしていこうという点で、すでに枝野代表と志位委員長の間で合意しています。

さらに枝野代表は、「5 野党・会派の枠組みで連合政権についても話し合いをしていきたい」という趣旨の発言をされました。重要な発言だと思います。総選挙では、政権の枠組みがどうしても問われてきます。「政権問題」で前向きの合意を得るための話し合いもぜひやっていきたいと思います。

●共闘発展へ日本共産党の役割

参院選のたたかいで、私がとくに大事だと感じたのは、共闘を発展させるうえでの日本共産党の独自の役割です。三重県に遊説に行ったとき、ちょうど安倍総理も来ていて、「相手陣営には共産党がついている。アメリカに対し安保条約を廃棄しろと言っている政党だ。自衛隊を違憲だ、なくせと言っている政党だ。こんな政党がついている相手に負けるわけにはいかない」と演説していました。彼らは、野党共闘を攻撃することによって延命を図ろうとしています。その攻撃の中身が共産党攻撃になっているのです。私は、3点について反論しました。

一つは、野党共闘とは何かということです。それぞれの政党の違いを認め合い、リスペクトしあいながら一致点で力を合わせるのが野党共闘です。だから、一致しない問題は共闘に持ち込まない。では一致点は何か。安倍政権が憲法を壊し

て強行した戦争法は廃止しよう、これは完全に一致しています。憲法を守らない安倍政権が憲法9条を変えることは許さない、これも一致しています。そして、国民の暮らしがこんなに大変な時に消費税10%はやめるべきだ、沖縄県民が何度もノーと選挙で審判を下している辺野古新基地の強行は許さない、避難計画も立てられないのに原発再稼働はありえない、原発ゼロを目指そう、など13項目で一致しました。これだけ一致したら、安倍政治を終わらせて新しい政治をつくる、大きな力になるのではないのでしょうかと訴えました。

二つめ。私たちの社会は様々な考えの人がいるのだから、お互いの違いを認めあい、尊重しあいながら一致点で力を合わせるのは、自然で当たり前のやり方ではないか。自分と考える違う人を「こんな人たち」と呼んで非難し、自分と考える違う政党を「こんな政党」と呼んで攻撃する。あまりに心が狭いのではないか。これでは多様性を認める社会のリーダーを務めることはとてもできないのではないのでしょうか、と問いかけました。

そして三つ目。日本共産党は、国民多数の合意で、日米安保条約を廃棄すること、そして、世界とアジアの人々の努力で平和体制がつくられたあと、国民の合意で自衛隊を解消することを、綱領に明記している唯一の政党です。ただ、この立場を野党共闘に持ち込むつもりはありません。

同時に、国民の願いを実現するためには、アメリカいいなりの政治のゆがみをただす必要がある。辺野古新基地中止、普天間基地返還、これを実現しようと思ったら、日米合意が必要になります。その時アメリカが「ノー」といったらどうするのか。あきらめるしかないのか。そんなことはありません。日米安保条約を廃棄する、これには日米合意はいりません。安保条約10条には、どちらか一方の締約国が廃棄を通告すれば、一年後に条約は失効すると書いてあります。普天間基地だけでなく、すべての米軍基地がなくなります。

朝鮮半島で非核化と平和の流れが起こっている時に、アメリカが世界中に殴り込みをかけるための基地はもういらない、沖縄県民や国民を苦しめる根源にある安保条約はもういらないという国民多数の合意をつくり、それを代表する政府をつくる。こういう展望を持っているのが日本共産党です。この党が伸びてこそ、国民の願いが実現できるのではないのでしょうかと力を込めました。

自衛隊問題で、いま問われているのは、違憲か合憲かではありません。米軍のために「血を流して」たたかう自衛隊に変えていいのかが問われているんです。これを止めるために、立場の違いを超えて力をあわせましょう、と訴えました。

以上3点の反論をしたのですが、いずれにしても安倍総理がもっとも恐れているのは、野党共闘であり、日本共産党です。野党共闘と日本共産党を伸ばしていただくことが、安倍政治を止める確かな力になる、と訴えました。彼らはおそらく総選挙に向けても野党共闘攻撃＝共産党攻撃を行ってく

ると思いますから、私たちが反撃する力をつけていくことが大切だと思います。

国政の流れの中で結果を見る

比例票 17 年総選挙を基準に



(3)では日本共産党の結果について述べています。

選挙区選挙では、東京、京都で現職の議席を守り、埼玉で伊藤岳さん、私の民青時代から友人で、何度も何度もチャレンジして 21 年ぶりの議席奪還となりました。大阪は皆さんにも力をお借りしましたが、残念ながら議席を失うことになりました。しかし、たつみコータローさんを先頭に素晴らしい市民との共同ができました。逆流に正面から立ち向かった立派なたたかいでした。力をつけて次の機会には必ず巻き返したい。

選挙区選挙では改選議席数の維持となりました。比例代表では、改選 5 議席から 4 議席となり、熱血弁護士・仁比聡平さんの議席を失ったことは残念です。

同時に、わが党が今回の選挙で獲得した比例得票をどうみるか。選挙というのは国政の流れの中でたたかいますので、どういう流れの中でたたかったのか、という点が非常に大事です。

そういう点で言うと 2017 年総選挙を一つの基準としてみる必要があると思います。なぜ 2017 年総選挙を基準にするかというと、2013 年の参議院選挙でわが党はグッと躍進をしました。改選 3 議席から 8 議席に躍進をしました。次の 2014 年総選挙で 21 議席に躍進しました。そして 2016 年の参議院選挙でも躍進の流れを維持しました。

ところが、2017 年の総選挙で野党共闘への逆流が起こりました。希望の党が生まれ、共闘が分断され、その分断・逆

流を乗り越えて野党共闘を守るために、日本共産党は独自の判断で 60 数人の候補者を下し、立憲民主党や無所属の人たちを支援し、野党共闘の流れをなんとか守りました。しかし野党共闘は守ったが、共産党は 21 議席から 12 議席に後退しました。野党共闘は伸びたけれど、共産党を伸ばせなかった。ここからどうやって押し戻すのかを、この間の一連の選挙の目標として位置付けてきました。

●総選挙での躍進へ足がかり

その観点からみれば、17 年総選挙で得た 440 万票 7.90%を低投票率の中で 448 万票に、得票率を 8.95%と 1%以上前進させました。「次の総選挙で躍進を勝ちとるうえで、重要な足がかりとなるものと確信する」——この見方が大事です。大きく押し込まれたところから、前進への足がかりをつかった。近畿ブロックでは、2014 年の総選挙で 4 人当選させていただいていますが、2017 年に 2 議席に後退しました。今回の参院比例得票で試算すると 3 議席に戻すことができるまで押し返しました。

一人区での野党共闘、わが党の選挙区、比例区のだたかいを全体としてみるなら、大健闘といえる結果をつくることのできたのではないかと思います。

論戦で大きくリード

悔しさバネに大きな党つくろう

論戦では大きくリードしたと思います。年金問題では党首討論での志位委員長の追及をうけ、安倍総理はマクロ経済スライドをやめると 7 兆円かかると、思わず漏らしてしまいました。厚労省は言ってほしくなかった数字なんですね。マクロ経済スライドを続けると国民の年金が 7 兆円減らされますよ、ということを総理自身が言ってしまいました。「減らない年金」をつくろう、財源はここにあるという提案。消費税に頼らない別の道で「暮らしに希望を 3 つの提案」も行いました。「希望を語る」ということを重視し、若い人たちにも受け入れられたと思います。

公約を実現するために頑張りたい。参議院選挙後の世論調査で一番やってほしいことを 5 つ選ぶ朝日新聞のアンケートで、社会保障が 38%、改憲は 3%です。誰も改憲など望んでいないということなんです。ジェンダー平等にも強い共感がよせられました。憲法をまもるたたかいと結合させていくことにも頑張りたいと、思います。

最後に、やっぱり党の自力をどうつけるか、これは全党のみなさん共通の思いです。どんな状況でも前進できる力を持つ党、共闘の勝利と日本共産党の躍進という 2 つの役割を果たせる党をつくことに新たな気持ちで挑んでいきたいと思っています。成果を確信に、悔しさをバネに、強く大きな党をつくるために一緒にがんばりましょう。